

<環境デザイン学科>

講座名	講師 (専門分野)	講義概要
集まって住む多様な形態	芦川智 (建築計画・都市計画)	世界各地の都市や集落を紹介し、なぜ集まって住むのか、何に集まるのかを見て、住むことの意味を探っていく。
畳と住居の歴史	磯野さとみ (日本建築史、日本住居史)	畳敷きの部屋は、今日消えつつある。この「畳」に着目しながら日本住居史の大枠を紹介する。
あたらしい建物	金尾 朗 (建築計画・都市計画)	個性やオリジナリティ、地域の個性などが求められている中、デザイナーがどのように新しい建物を考え、想像しているかについて実例を見ながら考えていく。
世界の住居	金子友美 (建築計画・住居計画)	世界各地の様々な住居の事例を通して、「住む」ということを考えます。気候・風土といった自然条件、宗教や生業といった生活条件、それらから見いだされる住居の形の理由を考えます。
教室を設計する	木村信之 (建築計画)	ふだん何気なく使っている学校の教室。その大きさや形、教室の中にある机やいす・棚などはどのようにして設計されたのだろうか。空間の機能と、大きさや形、インテリアの設えなどの関係を考える。
空間のデザインについて	杉浦久子 (建築デザイン)	都市、建築、インテリアなどの領域を越えてスペース・デザインという視点から私たちの暮らす場所を考察する。最新の実験的なプロジェクトを参照しながら、身近なスペースを新たな観点から見直してゆく。
すまいと生活 ～子ども部屋を考える～	竹田喜美子 (住生活学)	住宅や地域という空間を生活の視点から分析し、空間を通して生活の質を高める居住様式の方向を明らかにする。また同様の視点で、すべての人に人間らしい居住を保障する居住福祉のあり方を考えていく。
渋谷駅のはなし	田村圭介 (建築計画・意匠)	一日280万人の乗降者数をもつ渋谷駅の仕組みはどのようになっているのか。1885年に渋谷停車場としてスタートし、利用者の増加などの時代時代の要請を受けながら増築を繰り返した現在の渋谷駅の姿がある。その生物のように増殖してきた建物を考える。
家とインテリアの心理学	友田博通 (環境心理学)	家や部屋は、他の人々との距離を調整し、自分だけの生活や家族だけの生活を保障してくれます。毎日長い時間を過ごす自分の部屋やリビングを、人間と人間・空間と人間・文化と深層心理・流行と表層現象といった環境心理学の視点から考えなおしてみませんか？
環境科学 ～見えないものを見てみよう～	中山栄子 (材料学・環境科学)	快適に暮らすためには 私たちの環境を整えなければいけません。環境に影響を与えるものとして、大気汚染物質(含放射性核種)などがあります。こういった見えないものを見るようにする方法を考えてみましょう。
古い建物を保存して活用する方法を考えよう	堀内正昭 (建築史)	皆さんのまちにある歴史的な建物を保存する意味は何でしょうか。建物は活用してこそ意味があります。ここでは具体的な事例を紹介しながら、保存活用について考えてみます。
簡単な数学・力学を理解する。 それが真相解明の第一歩	森部康司 (建築構造、構造設計)	家やマンションが地震や風でゆれたとき、それはどのようにゆれるだろうか。複雑なゆれも、実は『1次関数』や『三角関数』の知識があれば、簡単にその動きを予測できてしまう。このような自然現象と数学・力学の結びつきについて講義を行う。
建築と環境	山口 温 (環境計画・建築設備)	環境問題が取りざたされる中、建築と環境はどのような関わりを持っているのか。環境に配慮した建築を紹介すると共に、太陽の熱や光といった自然エネルギーを、建築的な工夫によって利用する手法について解説します。
モノのカタチの不思議	橋 倫央 (プロダクトデザイン)	蚊取り線香は、なぜ渦巻き状の形なのでしょう。それは、小さい面積で使用時間を長くする工夫と、製造・運搬において非常に効率的なためです。私達が普段使っている製品の形には、理にかなった意味があります。この講義では、実例を基にプロダクトデザインの役割を解説します。
あかりのかたち ーランプシェード・デザインー	桃園靖子 (プロダクトデザイン)	「心に感じるあかり」をデザインします。あかりが在る空間を考察し、素材の言葉を利きながら、「あかり」と「かたち」を結ぶ造形表現を探ります。
ファッションが生まれるまで ーアパレルの企画・生産ー	石垣理子 (被服構成学・アパレルデザイン)	人々の生活を豊かに彩るファッションの中心にある衣服。シーズンごとに人を魅惑する新しいスタイル。これらはどのように生み出されてみなさんの手に渡るのでしょうか？アパレル(既製服)の企画、生産、販売の流れを追いながら、ファッションビジネスの一端を覗いてみませんか？
人のからだと衣服	猪又美栄子 (被服構成学・被服人間工学)	私たちが身につける衣服は、着て楽しいおしゃれな着心地の良いものが求められています。着心地の良い衣服とはどのようなものなのでしょうか。着用実験例をもとに人のからだとの関係から「着心地」を探っていきます。
くらしと科学	小原奈津子 (材料学)	この科目は、科学技術が生活にもたらす恩恵や弊害を客観的に捉え考える能力を養うことを目指します。授業では、基礎的な化学理論を土台に、くらしのなかで接している物質の性質や機能が現れる仕組みを解説します。
快適な衣生活 ー衣服の汚れと洗浄ー	下村久美子 (被服整理学・染織)	快適な衣生活を送るためには、衣類を清潔に保つことが必要です。衣類に付着する汚れの種類や、これらの汚れが洗剤中の成分によって除去される機構をわかりやすく解説します。
色彩調和と配色 ー自分の色を見つけようー	谷井淑子 (服飾造形・色彩)	色彩に関心を持ち、自由に使いこなすには色の基礎的な知識や配色についての理解が必要です。多くの配色例を参考に自分に合った色を見つけましょう。

靴の素材とデザイン	角田由美子 (被服造形科学)	靴の素材とデザインについて実験データをもとにわかりやすく解説します。靴内の環境を快適に整える素材とは？足に合う靴とは？靴音のする靴とは？早く歩ける靴とは？きれいに歩ける靴のデザインとは？など靴について考えてみましょう。
色彩科学と色彩文化	大津玉子 (染色学、色彩科学)	文化は独りで生まれたものではなく、科学技術の発展に支えられて生まれてきたという視点に立って、色彩科学技術と色彩文化の展開の跡を辿ってみる。
デザイン・デザイン	藤澤忠盛 (デザイン構想・ 意匠設計)	数多くのスライド・映像を使い現代デザインをユニークに紹介します。ヘルボトムのスリーメンズはなぜ裾が広がっているの？ボカリスウェットのパッケージデザインはなぜ青色なの？国旗の色の意味は何？パリコレの洋服は本当にいいデザインなの？未来の車はどんな車？建築家はなぜ変わった建物を建てるの？などデザインの謎と真相に迫ります。